

商工会議所LOBO(早期景気観測)

－ 2015年5月調査結果 －

 **日本商工会議所**
The Japan Chamber of Commerce and Industry
2015年5月29日

業況DIは、改善続く。先行きは横ばい圏内で推移も、持ち直しに期待感

<結果のポイント>

- ◇5月の全産業合計の業況DIは、▲13.5と、前月から+1.8ポイントの改善。輸出増に伴う生産の伸びや好調なインバウンドによる下支え、株高・賃上げに伴う消費者のマインド好転に加え、一部で設備投資の動きが出始めるなど、中小企業の景況感は、受注・売上の回復を背景に持ち直しに向けた動きが進む。ただし、比較対象の前年同月は駆け込み需要の反動の影響から業況が一段と悪化した時期であることに留意が必要。また、業況DIの好転は、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、依然としてコスト増や取引価格への転嫁遅れ、人手不足などが足かせとなる状況が続いている。
- ◇業種別では、建設業は、住宅関連や設備投資などの民間工事に持ち直しの動きがみられる一方、低調な公共工事が押し下げ要因となり、悪化。製造業は、コスト増加分の取引価格への転嫁遅れを指摘する声が聞かれるものの、自動車や工作機械などでは輸出向けの生産増を背景に、底堅い動きが続く。卸売業は、気温の上昇に伴い、夏物商品の受注が伸びたほか、原材料高に伴う仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁する動きが広がりつつあることなどから、マイナス幅が縮小。小売業は、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。消費者のマインドが好転しつつある中、夏物商品を中心に売上が伸びた一方、一部では食料品などの相次ぐ値上げにより不要な支出を抑える動きもみられる。サービス業は、インバウンドによる下支えに加え、ゴールデンウィークの観光客の入込も好調だったことなどから、改善。
- ◇先行きについては、先行き見通しDIが▲14.3（今月比▲0.8ポイント）とほぼ横ばいを見込む。コスト増加分の価格転嫁遅れや人手不足、人件費の上昇などが、引き続き経営の足かせになるとの見方から、一部にもたつきが残る。他方で、大手企業の業績改善が進む中、受注増や設備投資の持ち直しへの期待感が伺えるほか、夏の賞与増を含む所得環境の好転から、個人消費の伸びを見込む声も聞かれている。

----- 調査要領 -----

○調査期間 2015年5月15日～21日

○調査対象 全国の422商工会議所が2984企業にヒアリング

(内訳) 建設業：466 製造業：718 卸売業：323 小売業：700 サービス業：777

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および自社が直面する問題等

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がり意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$
$$\text{業況・採算：(好転)} - (\text{悪化}) \quad \text{売上：(増加)} - (\text{減少})$$

＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、今月の業況D Iは前月に比べ、建設業で悪化、製造業ではほぼ横ばい、その他の3業種で改善した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値の傾向(最近6カ月の傾向) ⬆ 改善傾向 ⇄ ほぼ横ばい ⬇ 悪化傾向

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄

- ・「資材価格の値上げが見込まれるが、依然としてコスト増加分の転嫁が十分にできておらず、さらなる収益圧迫を懸念」(一般工事業)
- ・「労務単価の見直しなどにより公共工事の採算は好転しているが、発注量が少ないため、期待したほどの利益を得られていない」(一般工事業)
- ・「住宅をはじめ民間工事の引き合いが徐々に増えてきており、今後の受注見通しにも明るさが感じられる」(建築工事業)

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⬆	⇄	⇄	⇄	⇄

- ・「円安定着により、海外産の冷凍すり身などの仕入価格が高止まりしているが、転嫁が進まず、採算は厳しい」(水産食料品製造業)
- ・「取引先の鉄鋼メーカーが今年度の設備投資計画を大幅に上積みしたため、受注が伸びている」(産業用機械部品製造業)
- ・「国内向けは依然として鈍いものの、北米を中心に輸出向けが好調。生産性を高めるため、省力化投資を行う予定」(自動車部品製造業)

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄

- ・「人材確保が困難なため、初任給の引き上げやベースアップを検討中。他方で、人件費の増大による経営への影響が心配」(農産物卸売業)
- ・「原材料高により仕入コストの増大が続いていたが、取引先との交渉に注力した結果、販売価格への転嫁が徐々に進んできている」(食料品卸売業)
- ・「業績が堅調に推移しており、物流拠点の集約や能力増強などの設備投資を検討している」(塗料・照明器具等卸売業)

【小売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄

- ・「ゴールデンウィーク後半に天気が崩れたほか、台風もあって多少なり客足に影響がみられたが、子供服や雑貨などを中心に売上は好調」(百貨店)
- ・「6月にプレミアム付き商品券が発行されるため、売上増を期待。ただし、商品によって品薄になる恐れもあり、在庫管理が難しい」(総合スーパー)
- ・「外国人観光客の来店が増えているため、中国語を話せるスタッフを雇いたいが、希望する人材が少なく、採用は難しい」(衣料品・服飾雑貨販売店)

【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇄	⬆	⇄	⇄	⇄	⇄

- ・「気温の上昇とともに飲料などの引き合いが増えることが見込まれるが、ドライバー不足が深刻であり、対応に苦慮している」(運送業)
- ・「野菜が高値となっているほか、食料品の値上げもあって、採算が悪化」(飲食店)
- ・「北陸新幹線を利用して来県する観光客が多く、特に休日は満室の状況が続いている」(旅館業)

【業況についての判断】

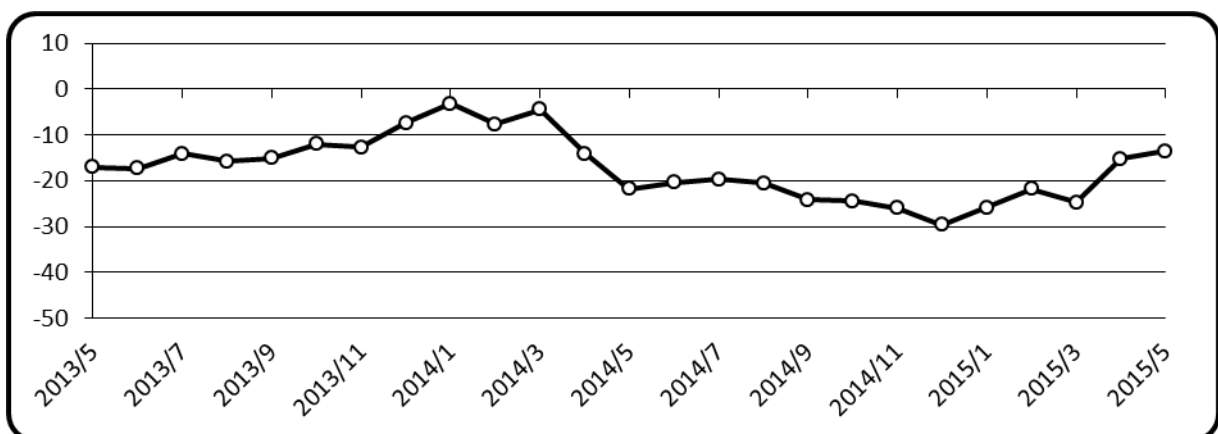
- 5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲13.5（前月比+1.8ポイント）と、改善。産業別にみると、建設業は、住宅関連や設備投資などの民間工事に持ち直しの動きがみられる一方、低調な公共工事が押し下げ要因となり、悪化。製造業は、コスト増加分の取引価格への転嫁遅れを指摘する声が聞かれるものの、自動車や工作機械などでは輸出向けの生産増を背景に、底堅い動きが続く。卸売業は、気温の上昇に伴い、夏物商品の受注が伸びたほか、原材料高に伴う仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁する動きが広がりつつあることなどから、マイナス幅が縮小。小売業は、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。消費者のマインドが好転しつつある中、夏物商品を中心に売上が伸びた一方、一部では食料品などの相次ぐ値上げにより不要な支出を控える動きもみられる。サービス業は、インバウンドによる下支えに加え、ゴールデンウィークの観光客の入込も好調だったことなどから、改善。
- 向こう3カ月（6～8月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲14.3（今月比▲0.8ポイント）と、ほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業は、住宅関連や設備投資などの民間工事に持ち直しの動きがみられるものの、低調な公共工事が業績を下押しするとの見方から悪化。製造業は、堅調な輸出を背景に大手企業の業績改善が進む中、受注増や円安定着に伴う生産・調達の国内シフトへの期待などから、改善。その他の3業種は悪化を見込むものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

業況DI(前年同月比)の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲29.7	▲25.9	▲21.7	▲24.7	▲15.3	▲13.5	▲14.3
建設	▲9.4	▲14.4	▲9.4	▲6.8	▲10.1	▲13.4	▲16.5
製造	▲23.6	▲17.5	▲14.9	▲15.6	▲15.6	▲15.1	▲11.7
卸売	▲40.5	▲30.5	▲29.8	▲34.2	▲20.5	▲17.3	▲19.5
小売	▲48.7	▲48.2	▲43.5	▲49.7	▲18.1	▲13.6	▲16.1
サービス	▲26.0	▲19.2	▲12.9	▲17.7	▲13.2	▲10.0	▲11.5

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

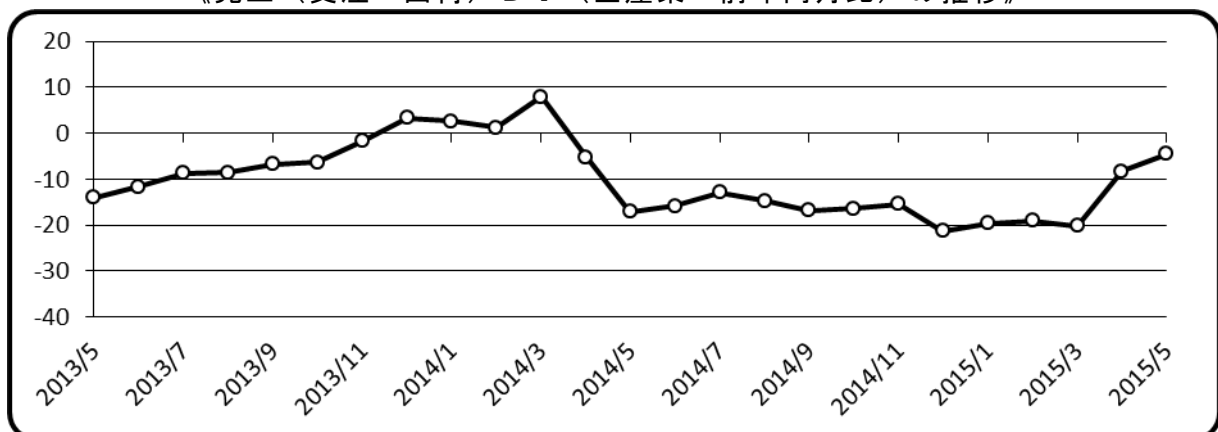
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲4.5（前月比＋3.8ポイント）と、改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。産業別にみると、建設業は、住宅関連をはじめ、民間工事の受注が持ち直しつつあるものの、公共工事が低調だったことから、ほぼ横ばい。製造業は、自動車などの輸出向けが堅調なほか、個人消費が持ち直しつつある中、衣料品などの国内向け製品にも動きがみられ、改善。ただし、比較対象の前年同月は、14年4月にみられた駆け込み需要の受注残による押し上げ効果が剥落し、D Iが大きく落ち込んだ時期であることに留意が必要。卸売業は、自動車関連を中心に製造業向けの受注が堅調だったほか、気温の上昇に伴い、夏物商品の引き合いが増えたことなどから、マイナス幅が縮小。小売業は、好調なインバウンドによる下支えに加え、夏日が続く、夏物衣料や飲料などの売れ行きが伸びたほか、株高を背景に高額品の売上も全体を押し上げたことから、改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化も影響していることに留意が必要。サービス業は、ゴールデンウィークを中心に国内外からの観光客の入込が好調だったほか、気温の上昇とともに飲食店の利用が伸びたことなどから、改善。
- 向こう3カ月（6～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲7.3（今月比▲2.8ポイント）と、悪化するものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばいの見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業はほぼ横ばい。改善を見込むサービス業は「悪化」から「不変」、悪化を見込むその他の3業種は「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲21.3	▲19.6	▲19.1	▲20.1	▲8.3	▲4.5	▲7.3
建設	0.0	▲9.3	▲3.8	▲2.4	▲12.6	▲12.9	▲12.6
製造	▲17.4	▲8.8	▲12.2	▲9.1	▲8.2	▲4.4	▲5.5
卸売	▲26.2	▲26.8	▲33.9	▲32.5	▲12.8	▲6.5	▲14.8
小売	▲45.1	▲42.5	▲38.2	▲48.7	▲4.9	2.7	▲5.4
サービス	▲14.6	▲13.3	▲11.7	▲10.8	▲7.0	▲5.0	▲3.9

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

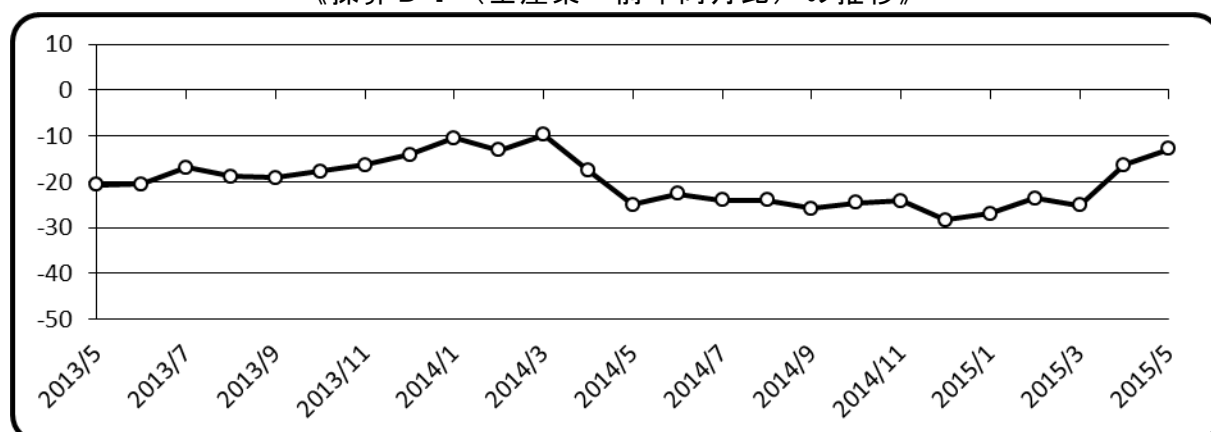
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲12.8（前月比＋3.6ポイント）と、改善。産業別にみると、建設業は、土木工事の積算基準の改定などに伴い、公共工事の採算が好転しつつあるほか、人手不足やコスト増の影響から受注案件を選別し、収益を確保する動きが続いており、マイナス幅が縮小。製造業は、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。受注が堅調な自動車や工作機械関連で採算が好転しつつある一方、円安定着に伴い、原材料を輸入に頼る食料品メーカーなどで収益改善が遅れている状況が伺える。卸売業は、仕入価格上昇分の価格転嫁が進みつつあるほか、高付加価値商品の受注増が収益改善に寄与し、マイナス幅が縮小。小売業は、消費者マインドが好転しつつある中、高付加価値商品の人気に下支えされ、客単価が上昇しているほか、高価格帯を中心とする免税品の売上増も寄与し、改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化も影響していることに留意が必要。サービス業は、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。高単価のサービス・商品の人気が堅調なものの、食料品の相次ぐ値上げやアルバイトなどの人件費上昇が収益を圧迫する状況が続く。
- 向こう3カ月（6～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲14.0（今月比▲1.2ポイント）と、悪化を見込む。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、サービス業はほぼ横ばい。改善を見込む製造業は、「悪化」から「不変」、悪化を見込むその他の3業種は、「好転」から「不変」への変化が主因であるため、実体はほぼ横ばい。

採算D I（前年同月比）の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲28.3	▲27.0	▲23.7	▲25.1	▲16.4	▲12.8	▲14.0
建設	▲14.9	▲18.2	▲13.2	▲14.2	▲13.9	▲12.7	▲16.4
製造	▲27.2	▲21.7	▲19.6	▲18.7	▲15.5	▲13.1	▲11.1
卸売	▲30.2	▲31.1	▲28.6	▲35.1	▲18.1	▲14.9	▲19.0
小売	▲43.4	▲41.4	▲41.0	▲45.4	▲18.5	▲10.6	▲13.2
サービス	▲23.2	▲23.1	▲16.3	▲15.4	▲16.0	▲13.8	▲14.0

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I（前年同月比）の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 14.4	▲ 14.8	▲ 12.7	▲ 14.2	▲ 8.8	▲ 10.4	▲ 13.1
建設	▲ 7.2	▲ 10.2	▲ 10.2	▲ 8.6	▲ 2.5	▲ 4.6	▲ 11.8
製造	▲ 13.4	▲ 11.5	▲ 10.5	▲ 12.0	▲ 8.8	▲ 10.6	▲ 11.4
卸売	▲ 18.0	▲ 13.5	▲ 10.1	▲ 12.7	▲ 6.0	▲ 7.1	▲ 11.2
小売	▲ 23.2	▲ 22.4	▲ 22.8	▲ 24.8	▲ 16.0	▲ 16.2	▲ 17.1
サービス	▲ 10.4	▲ 14.9	▲ 8.6	▲ 10.9	▲ 7.3	▲ 10.4	▲ 13.0

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲ 10.4と、前月から悪化。産業別にみると、小売業でほぼ横ばい、その他の4業種で悪化。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、悪化を見込む。産業別にみると、製造業、小売業でほぼ横ばい、その他の3業種で悪化を見込む。

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 50.1	▲ 45.7	▲ 42.5	▲ 44.5	▲ 44.7	▲ 43.7	▲ 38.0
建設	▲ 58.5	▲ 56.8	▲ 51.5	▲ 50.5	▲ 49.4	▲ 43.9	▲ 37.1
製造	▲ 53.3	▲ 47.7	▲ 39.8	▲ 41.4	▲ 40.3	▲ 37.8	▲ 29.0
卸売	▲ 48.6	▲ 47.9	▲ 44.0	▲ 47.1	▲ 52.7	▲ 59.2	▲ 45.0
小売	▲ 47.7	▲ 44.9	▲ 46.9	▲ 49.0	▲ 44.9	▲ 44.3	▲ 42.9
サービス	▲ 44.2	▲ 35.8	▲ 34.2	▲ 38.8	▲ 42.1	▲ 42.2	▲ 40.4

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲ 43.7と、前月からほぼ横ばい。産業別にみると、建設業、製造業は改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。卸売業は悪化、その他の2業種はほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、改善する見込み。産業別にみても、各業種で改善が見込まれるものの、いずれも「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。円安定着を背景に、夏以降も原材料などの価格上昇・高止まりや、食料品などの値上げが続くとの見方が多い。

従業員D I（前年同月比）の推移

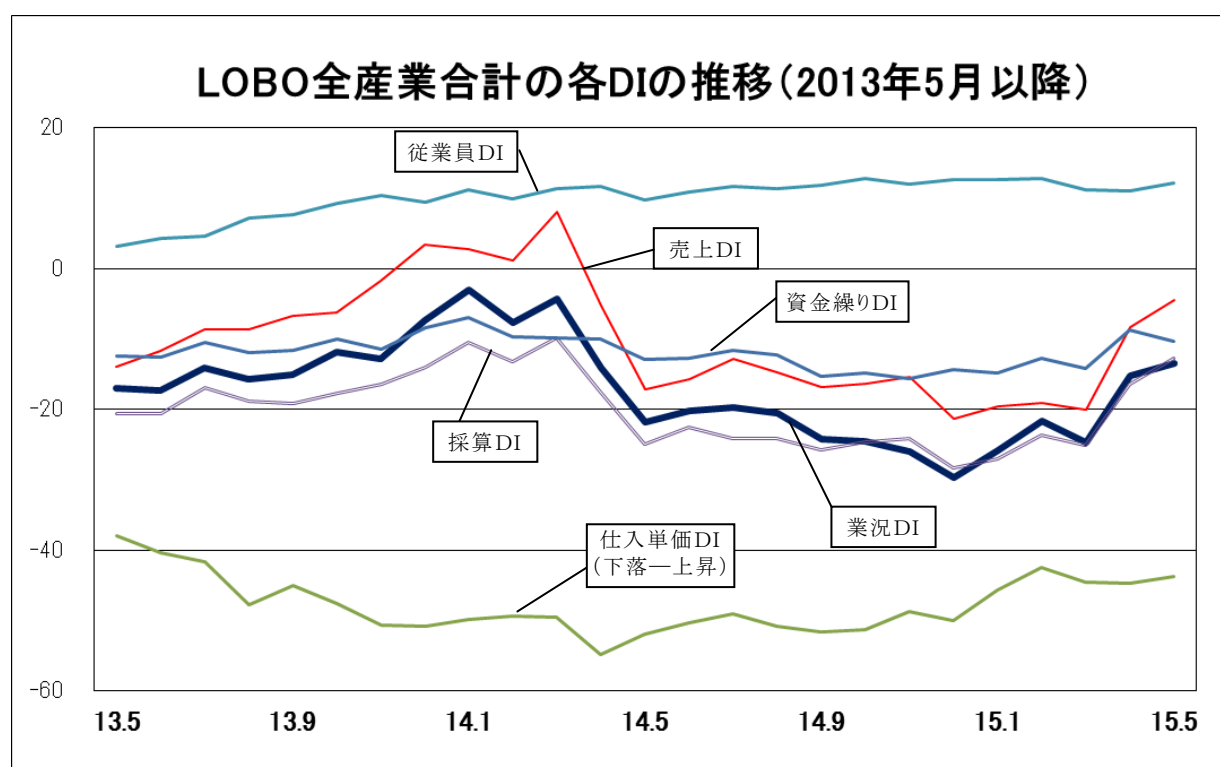
	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	12.6	12.6	12.8	11.1	11.0	12.1	13.1
建設	23.5	17.4	20.4	16.3	9.3	14.2	19.7
製造	4.7	11.0	6.8	7.2	2.2	2.3	3.4
卸売	1.2	▲ 3.0	1.8	▲ 1.3	6.6	4.2	4.8
小売	14.6	14.9	15.2	14.2	16.1	16.9	16.2
サービス	17.2	16.3	17.5	15.1	18.0	20.2	20.5

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは12.1と、前月から人手不足感が強まった。産業別にみると、建設業、サービス業で人手不足感が強まり、卸売業で弱まった。その他の2業種はほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいの見込み。産業別にみると、建設業、製造業で人手不足感が強まり、その他の3業種ではほぼ横ばい。

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I



【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、東北、近畿で悪化、北陸信越、東海で改善、その他の4ブロックではほぼ横ばい。ブロック別の概況は以下のとおり。

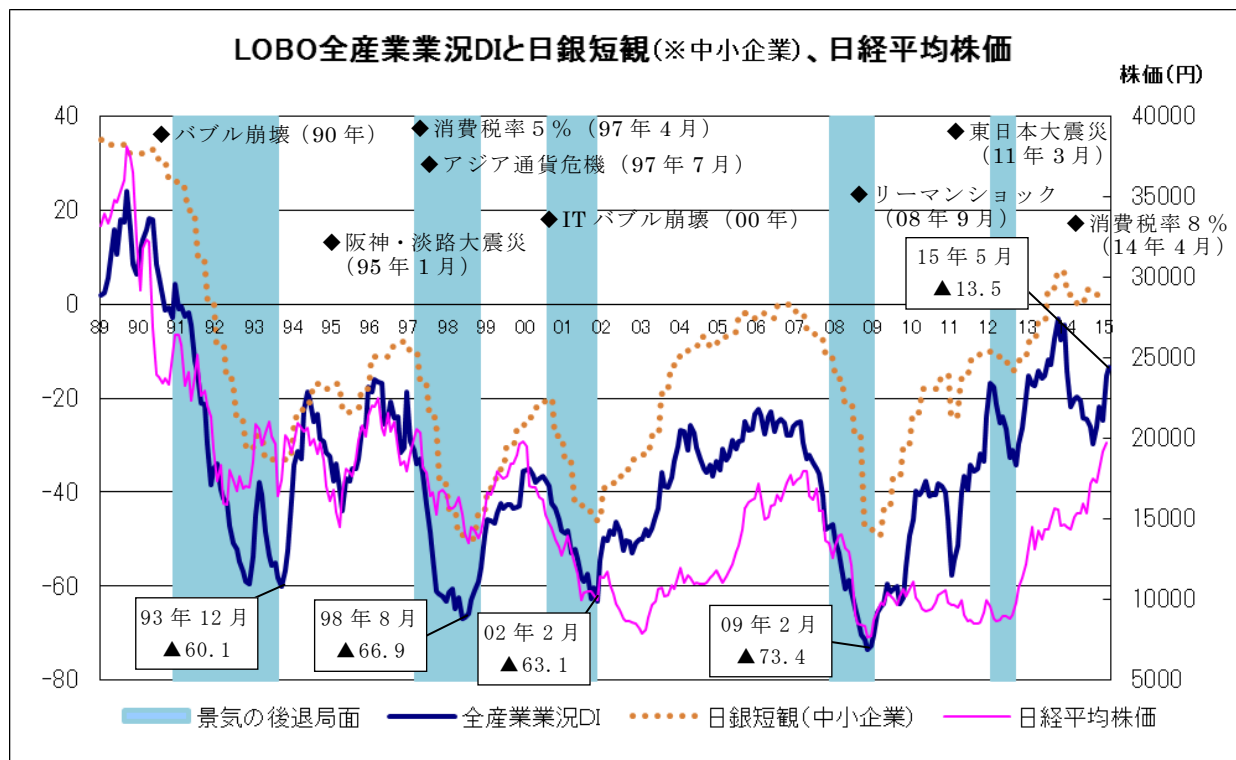
- ・ 北海道は、公共工事が低調なほか、輸入する原材料の価格上昇を受けて、食料品などの製造業で採算が悪化したことから、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大。
- ・ 東北は、食料品などの相次ぐ値上げやアルバイトの人件費上昇により収益改善が遅れるサービス業が全体を押し下げ、2カ月ぶりに悪化。
- ・ 北陸信越は、ゴールデンウィークを中心に、北陸新幹線沿線地域の観光客の入込が好調だったほか、建設業で住宅や設備投資などの民間工事の受注が堅調に推移し、2カ月連続で改善。
- ・ 関東は、仕入価格や人件費の上昇に伴う収益圧迫が続くものの、株高や賃上げを背景とする個人消費の持ち直しや外国人観光客による免税品の売上増が下支えし、横ばい圏内で推移。
- ・ 東海は、輸出向けが堅調な自動車や工作機械などのけん引が続くほか、製造業の業績改善が進む中、設備投資にも持ち直しに向けた動きがみられており、2カ月連続でマイナス幅が縮小。
- ・ 近畿は、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。好調なインバウンドが下支えし、観光関連を中心に底堅い動きが続く。
- ・ 中国は、ゴールデンウィークにおける観光客の増加により、小売業・サービス業で業況が改善したものの、公共工事の減少が続く建設業が下押し要因となり、横ばいで推移。
- ・ 四国は、気温の上昇とともに夏物衣料などの受注が伸びた製造業や卸売業で業況が好転したものの、食料品の値上げに伴う収益圧迫や台風の影響による客足の伸び悩みがみられた小売業・サービス業が振るわず、ほぼ横ばい。
- ・ 九州は、外国人観光客の増加を背景に、小売業・サービス業が堅調に推移する一方、建設業や製造業では、人手不足や人件費の上昇が業況改善の足かせとなるなど、一部で回復のペースがもたつき、ほぼ横ばい。

○ ブロック別の向こう3カ月（6～8月）の業況の先行き見通しは、今月と比べ、北海道、東北で改善、北陸信越、関東、東海でほぼ横ばい、その他の4ブロックで悪化する見込み。コスト増加分の価格転嫁遅れや人手不足、人件費の上昇などが、引き続き経営の足かせになるとの見方から、一部にもたつきが残る。他方で、大手企業の業績改善が進む中、受注増や設備投資の持ち直しへの期待感が伺えるほか、夏の賞与増を含む所得環境の好転から、個人消費の伸びを見込む声も聞かれている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 21.7	▲ 24.7	▲ 15.3	▲ 13.5	▲ 14.3
北 海 道	▲ 31.9	▲ 24.5	▲ 33.6	▲ 34.7	▲ 9.3	▲ 12.7	▲ 9.1
東 北	▲ 20.0	▲ 24.8	▲ 21.4	▲ 24.0	▲ 15.7	▲ 18.4	▲ 12.6
北陸信越	▲ 31.6	▲ 28.8	▲ 25.6	▲ 27.2	▲ 21.3	▲ 11.1	▲ 11.1
関 東	▲ 31.6	▲ 27.9	▲ 19.9	▲ 26.1	▲ 17.2	▲ 16.2	▲ 16.9
東 海	▲ 30.3	▲ 19.0	▲ 21.1	▲ 23.6	▲ 11.1	▲ 0.6	▲ 1.1
近 畿	▲ 26.7	▲ 25.2	▲ 17.6	▲ 22.5	▲ 9.1	▲ 10.2	▲ 15.3
中 国	▲ 31.9	▲ 17.8	▲ 11.9	▲ 16.7	▲ 17.9	▲ 17.9	▲ 20.2
四 国	▲ 33.9	▲ 37.5	▲ 24.3	▲ 21.0	▲ 17.3	▲ 17.9	▲ 20.0
九 州	▲ 27.0	▲ 23.6	▲ 25.6	▲ 23.5	▲ 17.7	▲ 17.5	▲ 22.2

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI



※短観(中小企業): 資本金2千万円以上1億円未満の企業が調査対象



商工会議所LOBO(早期景気観測) —2015年5月調査結果(概要版・付帯調査)—

2015年5月29日

業況DIは、改善続く。先行きは横ばい圏内で推移も、持ち直しに期待感

ポイント

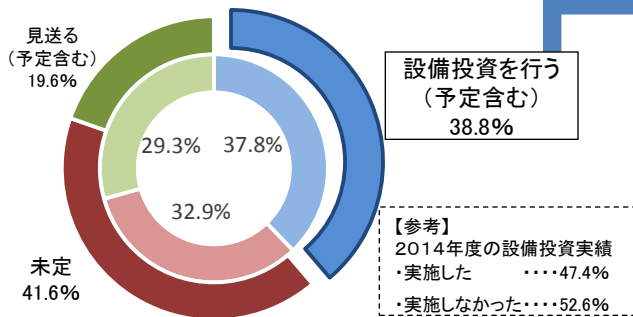
- ▶ 5月の全産業合計の業況DIは、▲13.5と、前月から+1.8ポイントの改善。輸出に伴う生産の伸びや好調なインバウンドによる下支え、株高・賃上げに伴う消費者のマインド好転に加え、一部で設備投資の動きが出始めるなど、中小企業の景況感は、受注・売上の回復を背景に持ち直しに向けた動きが進む。ただし、比較対象の前年同月は駆け込み需要の反動の影響から業況が一段と悪化した時期であることに留意が必要。また、業況DIの好転は、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、依然としてコスト増や取引価格への転嫁遅れ、人手不足などが足かせとなる状況が続いている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲14.3(今月比▲0.8ポイント)とほぼ横ばいを見込む。コスト増加分の価格転嫁遅れや人手不足、人件費の上昇などが、引き続き経営の足かせになるとの見方から、一部にもたつきが残る。他方で、大手企業の業績改善が進む中、受注増や設備投資の持ち直しへの期待感が伺えるほか、夏の賞与増を含む所得環境の好転から、個人消費の伸びを見込む声も聞かれている。

2015年度の設備投資動向

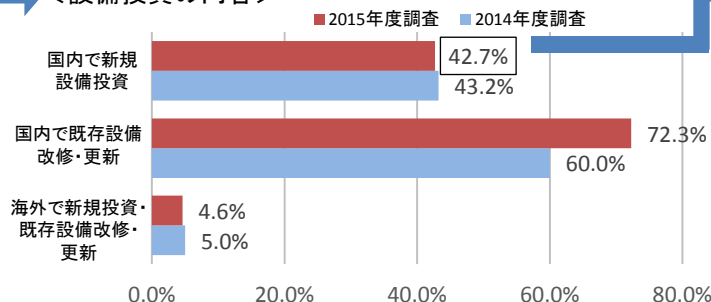
- ▶ 2015年度に設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は38.8%と、2014年5月調査と比べ、ほぼ同水準。他方、「未定」は41.6%と、8.7%増加し、「見送る」は19.6%と、9.7%減少
- ▶ 設備投資内容は、「国内で新規設備投資」(全産業)が42.7%、「国内で既存設備の改修・更新」が72.3%、「海外で新規投資または既存設備の改修・更新」が4.6%
- ▶ 国内の新規設備投資の目的は、「能力増強」が46.3%、「品質向上・新製品生産・新分野進出」が37.9%、「省力化・合理化」が29.0%、「省エネ」が17.8%、「その他」が8.9%

◆2015年度の設備投資動向について

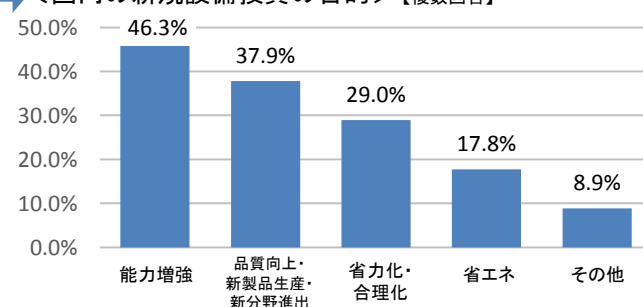
※円グラフの外側が今回調査、内側が前回(2014年5月)調査



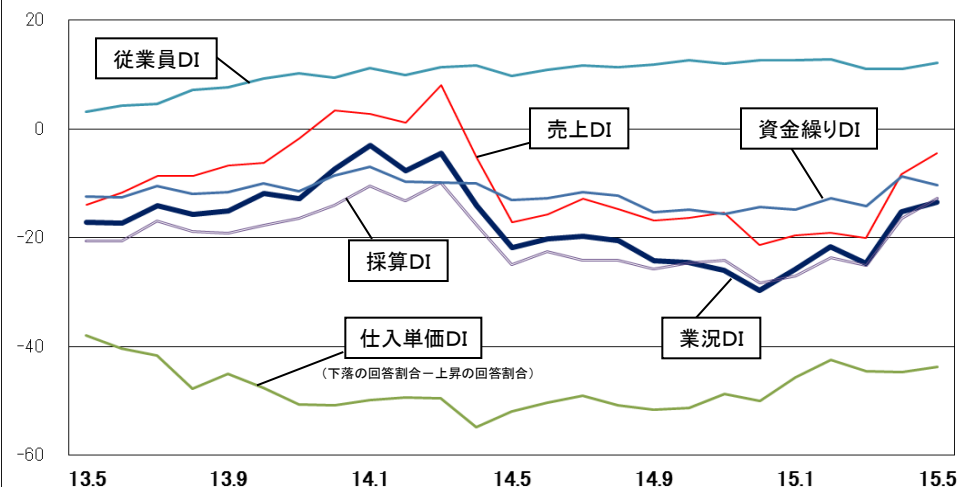
<設備投資の内容>



<国内の新規設備投資の目的>【複数回答】



LOBO全産業合計の各DIの推移(2013年5月以降)



【中小企業の声】

- ▶ 売上が伸びているため、既存設備の改修を行うが、仕入価格の高騰等が負担となり、大規模な設備投資を行うほどの余裕はない (青森 宿泊業)
- ▶ 昨年度に続き、品質向上や省エネ、合理化を図るため、設備投資を計画 (本庄 自動車部品製造業)
- ▶ 老朽化した店舗の建替えを行い、今夏にリニューアルオープンする。また、売上が堅調なこともあり、秋口に新規出店を予定している (浜松 総合スーパー)
- ▶ 清掃業務に必要な抗菌モップのクリーニング工場を新設。自社オリジナルサービスとしてPRし、新規顧客開拓につなげた (京都 ビルメンテナンス業)
- ▶ 取引先で高品質な日本製品へのニーズが高まっているため、設備投資や人員増強を図りたいが、安定的な受注が続か見通せず、踏み切れない (今治 衣料品製造業)